

平成27年度 第1回 天然記念物「高宕山のサル生息地」の

サルによる被害防止管理委員会会議録

1 会議の名	平成27年度 第1回 天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会会議
2 開催日時	平成27年 7月14日(火) 14時00分～15時16分
3 開催場所	富津市役所5階 503会議室
4 審議等事項	(1) 平成26年度 被害防止管理事業報告及び決算について (2) その他
5 出席者名	(委員) 高橋 恭市、石井 清孝、渡辺 隆二、山口 喜弘、 成川 正憲、茂田 達也、神子 勇、森 孝夫、 伊田 重美、武井 良彦、高木 淳子、池田 文隆 (環境省)戸田 博史 (千葉県)平田 和弘、菊地 里佳 (株)野生動物保護管理事務所)白井 啓 事務局 (調査団)直井 洋司、萩原 光、白鳥 大祐 (富津市)能城 雅幸、中後 秀樹、桐村 修司、知念 孝男 (君津市)矢野 淳一、當眞 紀子
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0 人(定員5人)
9 所管課	教育部生涯学習課文化係 電話 0439-80-1342
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

発言者	発言内容
富津市生涯学習課中後課長	<p>定刻となりましたので、平成27年度 第1回天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日の会議は、出席者12名、欠席者1名です。過半数の委員の出席を得ており、本委員会設置要綱第7条第2項により成立しております。</p> <p>会議に先立ちまして、委員長であります、高橋富津市副市長から挨拶を申し上げます。</p>
高橋委員長	<p>委員の皆様におかれましては、公私共に御多忙の中、御臨席を賜りありがとうございます。</p> <p>また、日頃当地域の文化財行政にご理解とご協力を頂きまして深く感謝申し上げます</p> <p>昭和62年に設置されました当委員会でございますが、サルや猪・鹿等による作物への被害はいまだ多く、その役割は益々重要なものとなっております。</p> <p>本日はお忙しい中、環境省関東地方環境事務所から戸田様、千葉県教育庁教育振興部文化財課から平田様、千葉県環境生活部自然保護課から菊地様、(株)野生動物保護管理事務所から白井様にお越しいただいております。</p> <p>今後の方針等についてお話をさせていただけると思います。</p> <p>さて、本日の議題は</p> <p>(1) 平成26年度事業報告及び決算について の1件でございます。</p> <p>また、その他として、本被害防止事業と関連する事業も含めまして、環境省及び千葉県の職員、3名の方からそれぞれの立場でのお話を伺う次第でございます。</p> <p>様々な立場からのご意見、ご提案等活発な審議をお願いいたしまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。</p>
中後生涯学習課長	<p>議題に入ります前に、今年度第1回目の会議で、委員も変わりましたことから、委員の皆様、事務局等の自己紹介の時間をとりたいと思います。</p> <p>(委員自己紹介)</p> <p>(事務局自己紹介)</p>

中後生涯学習課長	<p>続きまして、桐村文化係長の方から、お手元に配布した資料の確認をお願いいたします。</p>
(富津市)桐村文化係長	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 席次表</li> <li>2 会議次第</li> <li>3 当委員会設置要綱</li> <li>4 当委員会等名簿</li> <li>5 平成26年度 被害防止管理事業調査報告書</li> <li>6 平成26年度 被害防止管理事業決算書</li> <li>7 戸田氏配布資料：『交雑判定マニュアルのイメージ』 (平成27年7月14日版)</li> </ol> <p>本日の会議資料は以上ですが、不足はございませんでしょうか。ないようでしたら、資料の確認を終わります。</p>
中後生涯学習課長	<p>次に会議の公開についてですが、この会議は、富津市及び君津市情報公開条例により一般に公開されます。公開の方法としまして、会議の終了後、会議録を作成し、両市のホームページにて公開します。</p> <p>これに伴いまして、会議録が会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するために、委員の中から2名の方に署名委員として署名を頂きたいと思っております。</p> <p>議題に入る前に、2名の方をお選びいただき、後日、御署名を頂きたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>また、会議録作成のために録音させていただきますのでご了承のほどをお願いいたします。</p> <p>では、本委員会設置要綱第7条第3項の規定により、議長を高橋委員長にお願いします。</p>
高橋議長	<p>規定によりまして、議長を務めさせていただきます。円滑な議事進行に務めてまいりたいと思っております。</p> <p>それでは、議題に入る前に署名委員を2名決めたいと思っております。こちらからの指名でよろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>(異議なしの声)</p>
高橋議長	<p>武井委員と池田委員にお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>(異議なしの声)</p>

<p>高橋議長</p> <p>(君津市) 當眞副主幹(事) 文化振興係長</p>	<p>では、議題に入ります。議題(1)平成26年度被害防止管理事業報告および決算について事務局の説明を求めます。</p> <p>事業報告について説明させていただきます。</p> <p>○資料『平成26年度天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業報告書』より事業報告について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告 (被害防止・生態調査と個体数管理・天然記念物指定地域の環境改変と生息環境調査の事業3本柱について概要を説明)</li> </ul> <p>○被害防止(資料:7ページ～17ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気柵による被害防止 既設電気柵の維持管理と改修を行いました。 維持管理については、月1回以上の点検及び故障個所の補修、富津市宇藤原地区の周回電気柵の草刈りを行いました。 電気柵の故障原因は、バッテリーの寿命等による電圧低下や動物(イノシシ・シカ)による破損、刈払い機等により穴が開くこと、倒木による損傷などが挙げられます。 既設電気柵の改修については、君津市改修分200mと富津市改修分の150mとを合わせて350mの改修を行いました。 電気柵の仕様は、サルはもちろん、イノシシやシカに対しても高い防除効果が発揮される日亜鋼業製の柵を使用いたしました。</li> <li>・被害多発期の追い払いによる被害防止 今年度は8月18日から9月6日までの20日間、実施員数延べ27人日で追い払いを行いました。今年度は、この期間に、箱ワナによる捕獲を同時に実施し、その結果、石見堂群への発信機の装着ができました。</li> <li>・被害実態調査(資料:15ページ 図—1.7の説明) 指定地域とその周辺の農家のうち55戸を対象に実施しました。 被害については、富津側で減少、君津側で増加という結果でございました。原因としては、君津側では、群れから離れたハナレザルの被害が増加していることが考えられます。 富津側では、「要現状変更範囲」内の宇藤原地区では、被害対策が効果をあげていること、石見堂群という大きな群れの遊動が減少していることから、被害が抑えられていると考えられます。</li> </ul> <p>○生態調査と個体数管理(資料:18ページ～35ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレメーターの装着 テレメーターを装着するために、箱ワナを設置し、捕獲を行いました。結果、2頭を捕獲し、うち石見堂群のワカモノメス「イナ」にテレメーターを装着しました。もう1頭は、交雑個体のオスザルでした</li> </ul>
--	--

(君津市) 眞副主幹 (事) 文化振興係長

が、発見時既に死亡しておりました。

・生態調査

今年度は、T-I群、T-II群、石見堂群、旅名A群、及び西日笠群（仮称）の計5群の追跡調査を実施しました。

（上記5群それぞれの追跡調査の結果について報告。）

・個体数管理

今年度の天然記念物指定地域周辺で、君津市および富津市の有害鳥獣駆除により、駆除されたサルは、君津市側で63頭、富津市側で54頭、合計117頭でございました。昨年度に比べると、両市合計して11頭の増加です。

○天然記念物指定地域の環境改変と生息環境調査

（資料：36ページ～46ページ）

26年度は環境改変として天然更新と植栽の調査を行いました。

天然更新として高宕山県有林（君津市）の樹木、植栽としては国有林（富津市）の皆伐採地に植栽したヤマザクラ、それぞれの樹木の毎木調査や成長量等の測定を行いました。

26年度の生息環境調査においては、例年通り、富津市宇藤原地区の峰上ステーションに測定器を設置し、気温と降雨量の測定を行いました。

気温については、例年と大きな変化はありませんが、降雨量は25年度と比較して少なく、6月から8月の夏季に雨が少なかった傾向がみられます。

(富津市) 桐村文化係長

それでは引き続き平成26年度天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業決算書についてご説明いたします。

○決算説明について

（資料：『平成26年度 天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業決算書』に沿って説明）

歳入	（収入額）	4,473,000円
	内訳 富津市	2,460,000円
	君津市	2,013,000円

歳出	（支出額）	4,473,000円
	報償費	24,000円
	賃金	2,824,000円
	旅費	291,660円
	需用費	1,320,961円
	役務費	12,379円

決算報告については以上となります。

<p>(調査団) 白鳥</p>	<p>事業報告について補足説明させていただきます。</p> <p>○資料『平成26年度 天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業報告書』より補足説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気柵についての説明（資料：12ページ 図—1.6の説明） 今年度の改修には日亜鋼業製の電気柵を使用いたしました。高さは160cm～170cm程度で従来のものよりは低いタイプのものとなっております。しかしながら、上部の電流が流れるネットの部分については、斜めに網を張り外側に向かって倒れるような形で設置をしているので外から侵入を試みる動物に対しては威圧感があり有効であると考えております。</li> <li>・石見堂群について 石見堂群については、平成16年度ごろより発信機のない状態で調査を続けてきておりました。その石見堂群に平成26年度事業により発信機の装着に至り大きな成果であると捉えています。 （資料25ページの図-2.4：石見堂群の遊動域の変化について説明） （資料29ページの図-2.7：石見堂群とT-I群の行動域が一部重なっている旨説明）</li> <li>・環境改変（資料：36ページ） 当初の目的は天然記念物指定地域の環境を改変することによってT-I群を指定地域の範囲内に戻そうということで実施されてきました。しかしながら、今の事業規模から考えると、当初の目的を達成するのは難しいと考えております。 これから環境改変をどのようにしていくのかという点については、今のところ、天然記念物指定地域内の環境の指標を調査するという事で植生の調査を継続していく方向で考えてはおりますが、これから検討していこうと考えております。</li> </ul>
<p>高橋議長</p>	<p>ありがとうございました。 説明が終わりましたので質疑応答に移ります。 何か御質問等ございませんか。</p>
<p>池田委員</p>	<p>北側の地域の群れについては発信機が装着できていることから遊動域等ある程度把握されていることと思いますが、南側や西側の地域の群れにも発信機を装着する見通しはあるのでしょうか。</p>
<p>(君津市) 眞副主幹(事) 文化振興係長</p>	<p>池田委員の御質問のとおり発信機を装着できている群れは指定地域の北側に集中しているのは明らかな状態でございます。 今年度は、南側の地域にも箱ワナを設置して、群れの遊動等把握が出来ていないエリアについても発信機の装着を進め把握に努めたいと</p>

高橋議長	<p>考えております。</p> <p>他に御質疑等はございますか。他に御質疑もないようですので、議題（１）平成２６年度事業報告及び決算について、御承認頂ける方の挙手をお願いいたします</p>
委員一同	<p>（全委員挙手をする）</p>
高橋議長	<p>どうもありがとうございます。本件は承認されました。</p> <p>続きまして、会議次第 ４ その他 でございますが、本日、国・県から３名の方々がお見えになっておりますので、お話を伺いたと思います。</p> <p>はじめに、環境省 関東地方環境事務所の戸田様、お願いします。</p>
環境省 戸田担当官	<p>○ 「特定外来生物防除推進調査（ニホンザル交雑個体）業務」について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の概要について <p>平成２５年度より３か年で房総半島におけるニホンザルの個体群を守るための交雑個体の防除の方法と交雑判定の方法を確立させるための調査を行っています。</p> </li> <li>・事業の経過と今後について <p>初年度は情報収集と対象となる個体群の選定、中間年となる昨年度は試験的に捕獲を進め交雑判定を行いました。</p> <p>昨年度の結果ですが本天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業に関わる群れとして君津市の旅名Ａ群と富津市のＴ-Ⅱ群を対象群れということで選定しております。昨年度の２月に旅名Ａ群とＴ-Ⅱ群の捕獲が進みアカゲザルとの交雑について形態・DNAの判定を行った次第でございます。</p> <p>結果としては、Ｔ-Ⅱ群の捕獲個体についてはDNA判定では交雑個体はいないということでございました。旅名Ａ群については、南房総のアカゲザルの北上に伴い交雑がおきているのではないかと推測される結論に至りました。</p> <p>調査のため捕獲した個体については全頭放獣いたしました。というのも、捕獲をした時期は、かなり冷え込む時期でございました。DNA解析の判定が出るまで捕獲個体を留め置いているとニホンザルの純血個体が弱り滅失に至る可能性がある、ということで放獣をした次第でございます。</p> <p>その後、京都大学霊長類研究所とかずきDNA研究所とで血液のDNA解析をしたところ、交雑が疑われるという判定結果でございました。</p> <p>今年度は、交雑判定の基準を確立するために有識者でワーキンググループを設置し、事業に付随している検討会を開催しつつ、房総半島における交雑判定についてマニュアル化できるように事業に取り組ん</p> </li> </ul>

環 境 省  
戸田 担当官

でまいります。

・捕獲後の交雑判定

(資料『交雑判定マニュアルのイメージ』に沿って概要の説明)

捕獲にあたって、留置き期間が長くなるとニホンザルの個体が衰弱し滅失に繋がる恐れがあり、経費もその分だけ発生してしまいます。

そのため、まずは、留置き期間を如何に短縮していくかということを中心に判定方法を考えており、まずは一次判定で形態分析を行うということを考えております。

アカゲザルとニホンザルは、同じマカクサル属ではあっても、交雑個体は外見にそれぞれの特徴が表れてまいります。このような外見上に表れるそれぞれの特徴で判断することによってF3(交雑第3世代)までは外見での判定が可能であるとする研究者もいます。そのような考えがありますので、本事業においても、できればF3の世代までは捕獲と同時に判断をし、ニホンザルであれば放獣をし、交雑個体であると判定されれば処分をしていこうと考えております。形態だけでは判断できない場合もあるので、二次判定として遺伝子分析による方法を考えております。

血液タンパク質による判定、ミトコンドリアDNA(mt-DNA)を用いた方法、近年京都大学霊長類研究所により開発されたマイクロサテライト方式による判定、今までの千葉県の交雑対策事業で使われていた千葉H20-M15DNA判定、これらの方法を上手く取り入れながら交雑判定をしていきたいと考えております。

○文化庁補助金の活用について(提案)

事業について報告をさせていただきましたが、事務局に一点伺いたいことがございます。“高宕山事業”は文化庁の補助金を活用されているのでしょうか。というのも、場合によっては、2/3の国庫補助が受けられ事業規模を大きくすることが出来ます。

有害鳥獣としてのサルについては捕獲や防護柵で防除をしていくということですが、天然記念物を守るという観点から申し上げますと、なるべく早急に捕獲をしつつも交雑個体を間引いていくことが必要ではないかと考えております。

高宕山周辺地域については交雑が危惧されるような状況下でございますので、文化庁や県自然保護課、富津市・君津市、行政レベルで高宕山のサル生息地で何が起きているのか、現状や天然記念物としてのサルをどのように守っていくのか対応策について話し合う場を設けることが出来ればと考えております。現在、千葉県の自然保護課と調整しておりますが、一刻も早く天然記念物のサルを守るための防除手法を行政機関の中で検討していきたいと考えております。

(君津市)眞  
副主幹(事)  
文化振興係長

○文化庁補助金の活用について(事務局回答)

26年度の第2回目の会議の際に県文化財課の平田様よりお話がありました。富津・君津両市で検討をしているところでございます。

26年度1月に文化庁を訪問し担当官と協議を行い、25年度の2月には文化庁の担当官が直接視察に訪れ現地視察を頂くなど連携を取

<p>(君津市)眞副主幹(事)文化振興係長</p>	<p>り事業を行っております。</p> <p>交雑の結果について、昨年度の2月の段階では、DNAの判定結果が出ておらず、事務局としても捕獲したサルは全てニホンザルであるという認識であったため、交雑対策事業に国庫補助金を活用するということについては動いておりません。</p> <p>ただし、交雑対策とは別のお話となりますが、補助金を活用して事業を進めていくようにという指導は文化庁からありましたので、両市で国庫補助を受けて事業を進めるべく準備をしているというのが現状でございます。</p>
<p>環境省 戸田担当官</p>	<p>文化庁の補助金を活用すれば最大で2/3の助成を受けることができますので、場合によっては、今現在の3倍の事業規模にできるので是非とも補助金について活用していただければと思います。</p>
<p>高橋議長</p>	<p>戸田様、ありがとうございました。</p> <p>ただ今の戸田様のご説明について何か御質問等はございますか。</p>
<p>森委員</p>	<p>アカゲザルとニホンザルを見かけても、中々、現地で判別することが難しいので見分け方を教えてください。</p>
<p>環境省 戸田担当官</p>	<p>同じマカク属であるので極めて似ており、群れで動いているといった場合は目視で判別するのは難しいと思います。ただ、それぞれに外見上の特色がありますので、捕獲をし、計測を行えば遺伝子分析をしなくても判別が出来るということが本環境省の業務を進めていく中で明らかになってきております。</p> <p>そうした形態分析による判別も含めて交雑判定についてマニュアル化を進めていき、高宕山のサル事業についても活用頂けるように精度を上げていきたいと考えております。</p>
<p>武井委員</p>	<p>アカゲザルについて、元々は千葉県の南側に居たということでしょうか。</p>
<p>環境省 戸田担当官</p>	<p>ある施設が観光を目的にアカゲザルを大陸から輸入していたが、運営に行き詰まった結果、当時としては外来生物と言った概念も薄かったため、殺処分ではなく放獣を行ったということから広まったと考えられております。</p>
<p>高橋議長</p>	<p>続きまして、千葉県文化財課の平田様、お願いいたします。</p>
<p>県文化財課 平田主任上席</p>	<p>高宕山地域のサルと高宕山の周辺地域のサルとで、それぞれのエリアを遊動しているサルがどのように動いているのか・一体どのサルが</p>

<p>文化財主事 県文化財課 平田主任上席 文化財主事</p>	<p>天然記念物指定地域に関わっているのか・どのサルが被害を出しているのか、十分なデータが無いと感じております。</p> <p>そこで、今後は文化庁とも協議を図りつつ、国の補助金を活用し事業規模を拡大することで、実態を明らかにして欲しいと考えております。例えば、危害を与えるような恐れのあるサルを指定地域内で捕獲したいといった場合であっても、きちんと実態を把握した上で保存管理計画を立てることによって、捕獲が可能となり個体数管理を徹底していくことができます。</p> <p>交雑問題に関しても高宕山周辺地域のサルの状況についてきちんと把握した上で対策を図るべきであると考えております。</p>
<p>高橋議長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、同じく千葉県自然保護課の菊地様、お願いいたします。</p>
<p>県自然保護課 菊地班長</p>	<p>ただいまサルの管理についてまずは群れの把握が必要であるということでお話を頂きました。県も、県の計画に基づき群れの把握をした上で、群れ毎の加害度合によって、残すべき群れとそうではない群れとについて群れ単位で判断していくという方針を続けてきております。</p> <p>とはいえ、中々、電波発信機の装着個体が少なく装着に至っていないような地域もあるので、これについては、例えば、市町村により生体捕獲されたような個体に発信機を装着するという事業は今年度も続けているところでございます。</p> <p>交雑対策については、千葉県内で交雑がある程度発生してしまっているという過去のモニタリングの結果が出ておりますので、交雑個体の多かった所・交雑率の高かった所から群れごとにサルを捕獲してDNAを調べ交雑個体であれば除去するという事業を続けております。</p> <p>サルについては交雑の問題もありますが、農作物等への被害の問題もありますので、今後は、交雑と農作物への被害対策の両方の問題を勘案し群れ単位で対処を考えていく必要があると考えております。</p> <p>交雑問題については、環境省さんで現在行っている事業の結果を踏まえて対策をしていければと考えております。</p> <p>先ほど、戸田担当官からもお話のありました、関係者の情報共有の場について近々設けたいと考えております。本日、皆様お集まりですので、日程調整を含めて、まずは、富津市・君津市以外も含めて県内の群れの状況がどうなっているのか、情報の共有が出来ればと考えております。</p>
<p>高橋議長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの御説明につきまして御質問等ございますか。</p>

森 委 員	<p>清和地区内を毎朝巡回しておりますが、ハナレザルが増えてきていると感じております。そのハナレザルが悪さをするので対処に苦慮しております。ある程度群れで動いてくれれば対処も出来るのですが、今現在、清和地区を遊動する群れはどの位あるのか把握されているようなら教えて頂ければと思います。</p>
県文化財課 平田主任上席 文化財主事	<p>清和地区方面を遊動する群れについて、旅名A群以外の群れについては実態を把握されていないというのが現状ではないかと感じております。天然記念物指定地域およびその周辺地域の南側を遊動する群れについては、遊動する群れがあるということそれ自体は分かっているということは聞いておりますので、指定地域の南側を遊動している群れの実態について早めに明らかにして欲しいと考えております。</p>
(調査団)直井	<p>捕獲の努力はこの事業の範囲内でやっておりますが、広域で行うのは難しい現状でございます。かつては、群れが遊動しそうなポイントに小型檻を1基設置すれば捕獲に至っていたのですが、最近では、そういった従来のやり方では捕獲に至らなく苦慮しております。</p> <p>環境省のアカゲザル事業においては1か所に10数台の捕獲檻を設置しまとめたの捕獲を試みたという事例がございました。今年度は君津市の尾崎に1カ所に複数台の檻を設置しておりますが、群れがすぐ近くまで来ている状況となっておりますので、近々、出来るだけ早いうちに捕獲をし、発信機を装着する予定でございます。</p> <p>もし、尾崎の群れに発信機がつけば、この群れは宇藤木の方面も遊動している可能性があるため、より広い範囲の行動域が見られるのではないかと期待している次第でございます。</p> <p>捕獲についてですが、本事業だけでは手が回らない部分がございます。昨年度は環境省事業の中で捕獲したT-II群に新たな発信機を装着することができました。今後とも様々な事業と連携を図りながら進めなければいけない状況であると考えている次第でございます。</p>
県自然保護課 菊 地 班 長	<p>県の事業について補足を説明して頂きます。</p> <p>県の調査でサルに電波発信機を装着している旨説明させていただきました。捕獲の方法については、県の事業として有害鳥獣捕獲に対して助成をしているのですが、その中で生体捕獲されたものについて、助成をつけている事業はございます。</p> <p>県に対する補助事業の中で発信機を装着したいということであれば御相談いただければと思います。</p> <p>県の事業を有効に活用頂いて、1頭でも多く発信機を装着していただければ、と考えております。</p>
(調査団)直井	<p>調査団からのお願いでございます。先ほど、申し上げたとおり、尾崎の群れについてはすぐにでも箱ワナにかかるかもしれないといった状況下でございます。ただ、捕獲した個体を交雑判定にかける手続き</p>

(調査団)直井	<p>といったものが本事業においては設定されておられません。</p> <p>先ほど、県の方より、行政間の連携を目的とした会合を行っていただけとのことでしたので、この高宕山事業で捕獲した個体の交雑判定についてどのように行うのか検討していただければと考えております。</p>
高橋議長	<p>その他で何かございますか。</p>
成川委員	<p>私は、清和で生まれ育ち、現在も清和に住んでおります。子どものころからしますと、サルを見かける回数はかなり増えており、それに比例して清和地区における農作物の被害も深刻さを増しております。</p> <p>実際、私の家でも家庭菜園程度ですが野菜等を作っており、収穫できる寸前にほとんど獲られてしまうといったことも何度か経験しております。見かけるサルも10頭前後の群れが多く、今後はお年寄りや子どもなど、人への被害も危惧しております。</p> <p>これらのことから、被害防止対策の強化が必要であると思いますが、保護や指定区域の関係など難しい側面もあり現状に至っていると思われまます。</p> <p>今後の指定区域の見直し・解除等について可能なかどうか、お伺いしたく思います。</p>
<p>県文化財課 平田主任上席 文化財主事</p>	<p>・指定文化財の解除及び指定区域のエリアの見直しについて</p> <p>指定文化財の解除ということですが、国指定の天然記念物であれば、文化財としての価値が明らかになくなった時を除いて解除は出来ません。</p> <p>また、天然記念物指定地域の見直しということですが、当該エリアに文化財的価値が全くなくなったということが調査により判明し、そのエリアを除いたとしても、文化財的価値が守られるといったことがあれば考慮される場合もあるかもしれません。</p> <p>しかしながら、現状では、指定地域それ自体に文化財的価値がなくなってしまうというデータは無いために見直しということも出来ない状況でございます。</p> <p>・「要現状変更範囲」「要協議範囲」地域の解除・見直しについて</p> <p>指定地域周辺に設定されている「要現状変更範囲」「要協議範囲」といった指定地域周辺の地域については、指定地域内のサルの群れの生態について明らかにし、対処についてきちんと方針を作れば解除は可能となるだろうということは文化庁の調査官より伺っております。</p> <p>ただし、「要協議範囲」のサルについては、それが指定地域内から移動してきたサルなのか、あるいは「要協議範囲」よりももっと外側からやってきたサルなのか、今のところは区別がついていないというのが現状であると思えます。「要協議範囲」にいるサルは一体指定地域からきたサルなのかどうか、そこら辺を区別していければ、天然記念物</p>

<p>県文化財課 平田主任上席 文化財主事</p>	<p>としてのサルの群れについては追い払い等で被害防止をしたうえでの計画的な個体数管理が可能となります。それ以外のサルについては、天然記念物のサルではないということが分かれば、鳥獣保護法に基づいて管理を行っていく形となると考えております。</p>
<p>(調査団)萩原</p>	<p>・指定地域の解除と農作物被害について      今まで断片的に発信機を付けることができた清和地区の小規模なサルの群れについて見ていきますと、河川を根拠地として散発的に農作地を荒らすといった様子が見られます。そのようなサルの群れは、猟銃による駆除によって群れが分裂してしまった傾向が見られます。      確かに、指定地域を解除すれば猟銃等によりサルを駆除することが出来るエリアが広がるのではないかと考えた考えもございしますが、先ほど、お話のありましたとおり群れによる管理ということがこれから大事になるのではないのでしょうか。群れに発信機をつけ、群れ単位での追跡が出来るような体制を整えることで農作物被害を減らすようにしていくべきであると考えております。</p>
<p>高橋議長</p>	<p>ありがとうございました。他に何かございますか。      ないようですので、以上で本日の議題を終了といたしました。      いくつか今後の課題となる点の指摘を頂いておりますので、事務局で協議をした上で進めて参りたいと考えております。      これにて議長の職を解かせていただきます。      御協力ありがとうございました。</p>
<p>中後生涯学習課長</p>	<p>それでは、以上をもちまして、平成27年度 第1回 天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会会議を閉会といたします。ありがとうございました。</p>